



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 19 号 香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141
FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

- 専攻実習の取り組み □活躍する卒業生 □頑張る修了生 □校外講師の授業風景
- 農業経営力養成講座に参加して □同窓会だより □農大ふれあい市

専攻実習の取り組み

キャベツ農家で専攻実習

野菜園芸コース 藤井 翔太

私は、丸亀市の栗熊にある竹内農園さんで専攻実習を行っています。四月の春キャベツ収穫から始まり、夏場には除草、土壌管理、定植等、ブローの現場で実践的な農業を学びました。そして秋からは、卒論論文作成のための試験を本格的に開始しました。



試験の題材は、「キャベツの株間と生育の関係について」です。私は竹内農園さんでキャベツの管理について半年学んだので、今回の試験ではキャベツを題材にし、定植時の株間を変えることが収穫前のサイズ変化や生育日数に及ぼす影響等を調べています。

今は調査中ですが、竹内さんに指導して頂きながら卒論を完成させたいです。

小ギクの課題に取り組み

花き園芸コース 安藤 凌

私達二年生は、校内と農家に分かれて専攻実習を行っています。私は校内で切花や鉢花などの栽培管理作業を通して花きの知識や技術を身につけています。

特に、午前中は切花の収穫、調整、出荷準備などがありますが、人数が少ないこともあり、とても忙しい時期もあります。

専攻



実習の中では、「エテホン処理による小ギクの開花調節の検討」を卒業論文の課題に取り上げ、長日処理を行わずに開花を遅らせて目的とする時期に開花させられるかについて調査しています。今後は、調査データをとりまとめ、卒業論文の作成に取り組みます。今

回の試験で得られた結果が、小ギク栽培をする上で参考になればと思います。

専攻実習での経験が、社会に出て役に立つように頑張りたいと思います。

太秋の肥大促進試験大詰め

果樹園芸コース 岡野 冬弥

果樹コースは、農大と農業試験場府中果樹研究所に分かれて専攻実習を実施しており、この実習の中で、卒業論文を各々が計画し、専門の先生方からアドバイスをいただきながら取り組んでいます。私は卒論として「太秋(カキ)の窒素系葉面散布による濃度別肥大促進の効果試験」に取り組んでいます。

現在、

果実の第三期肥大期となり、最終散布処理の大詰めを迎えました。今後、期待どおりの肥大促進が図られるのか、期待と不安でいっぱいです。試験樹の管理に責



任を持ち、頑張っています。台風等で枝折れや果実落下を心配し、入念に結果枝の誘引固定も行いました。しかし、気象災害や鳥獣対策（電気柵設置済み）など不安要素が後を絶ちません。早く無事に収穫期を迎えたいと日々思っています。栽培管理だけではなく、外的なマイナス要因に対する危機管理など、農業経営の難しさと奥深さを実感しています。

芝張を体験しました

造園緑化コース 高尾 雄太
専攻実習の一環として、丸亀競技場の芝生改修工事を担当している四国造園が主催する現地研修会に造園緑化コースの一、二年生十名が参加し、芝張の実習を行いました。

初めに工事の概要などの説明を受けた後、サブグラウンドで、幅五〇cm×二mの芝生をロール状に巻いたものを、転がしながら隙間を開けないように慎重に張りました。品種はティフトン芝。この芝は成長が早く丈夫で、美しい品種です。

現場では、担当の方からプロならではのいろいろな話を聞くこともでき、とても勉強になりました。

卒業まで半年程になりましたが、これからも造園技術や、様々な知識を身につけられるよう頑張ります。

中田養蜂で実習中

畜産コース 半田 光明

私は石田高校在学中から畜産の中でも特にミツバチに興味があり、その関係で高松市中山町の中田養蜂場で実



習をさせてもらっています。実習内容は、ミツバチの飼育と管理、ミカン、ハゼ、ヤマレンゲ、ビワ、百花を蜜源としたハチミツの製造で、これらはみな初めての経験なので、中田養蜂場の先生方の指導のもとで頑張っています。

この実習も来年一月で終わりますが、ミツバチは奥が深く、自分はまだ未熟者ですが、卒業後も二〜三年は中田養蜂場で修業、勉強させてもらう予定です。

将来は自分でミツバチの飼育や管理をしてハチミツの製造を行うだけでなく、受粉昆虫でもあるミツバチを利用してイチゴ、メロン、スモモなどの果実生産、採種を目的としたタマネギ、ブロッコリー、キャベツ、カブ、ニンジンなどの受粉をする養蜂業をめざしたいと思っています。

活躍する卒業生

大林 将都士さん（丸亀市）

大林さんは、平成二三年三月に農業大学校を卒業後、農業法人で研修を行い、平成二

四年の八月から独立して自営を開始しました。



最初はナバナの栽培から始め、現在は夏の露地キュウリー五a、冬はナバナ三〇aを中心に栽培しています。また、その端境期に産直に出荷する品目を検討しながら栽培しています。一部の作業を家族に協力してもらいながら、基本的には一人で作業しており忙しい毎日です。

独立して五年目に入りますが、毎年のように前の年とは異なる天候に悩まされ、作業の段取りに苦労しながらも先輩の農家に教わりながら経験を重ねています。

今後はナスの施設栽培の導入も検討する等、意欲的に取り組んでいます。

頑張る修了生

河田 知恵子さん（高松市）

河田知恵子さんは平成二七年度の就農実践研修生で、研修終了後は高松市で就農しています。

現在は、ご主人とパート二名、高校生のアルバイトを雇用し、オクラ一五a、ナバナ三〇aを経営しています。オクラは毎朝五時から収穫し、袋詰めなどの調整作業も大忙しですが、主婦業も疎かにすることなく頑張っています。

認定新規就農者にも認定されたので、今後は香川県農地機構などを通じて規模拡大にも取り組んでいくこととしています。



現在の課題は、雇用の安定化です。

過去には三日で辞めた人もいたので、農業に本気で取り組む人を雇用して、一緒に地域の農業を考えていける人を募集中です。

農大での研修の一番の思い

出は、秋作の準備で夏場に畝立てやマルチ張りといったハードワークを「根性」で乗り切ったことです。また、他の研修生とも交流が深まり、今でも良いつき合いが続いていることだと、語ってくれました。

校外講師の授業風景

香川民俗学会 名誉会長

谷原 博信 先生

農業の大切さを学ぶ



正月に來る神様をトシガミといふ。トシといふのは古くは穀物、特に稲の意味である。年神は稲を豊かに実らせてくれる田の神（農神）であり、この神は家々の繁栄をもたらす。

農業の基本はその米づくりである。ところが最近では外国から安価な米が入るようになってコメの価値が少し下が

ったように思う。しかし日本の民俗では米の儀礼が沢山ある。正月行事のほとんどは稲の神を迎えて送る行事である。門松もその神を迎える依代である。「正月（神）さん正月さんどこまでござった」という歌謡も年神が正月に合わせてやってくるといふ信仰の表現である。その方を恵方という。その神を迎えるための特別な年棚を設ける地域もある。

農業大学校はそんな農業の基本を学ぶところである。日本人の基本の生き方を学ぶことでもあるといえる。誇りをもってこの学問に勤しんでほしい。

農業経営力講座に参加して

①東京セミナー

野菜園芸コース 藤田 結加

八月一日から、就農を目指している人七〇名を対象とした三日間のセミナーに、同じコースの安藤紗恵さんと参加してきました。

一日目のテーマは「農業者に必要なものは何か」でした。

テーマについて、こと京都（株）の山田敏之さん、エスビー食品（株）の江戸龍太郎さんが、ご自身の経験を基に現在の経営戦略についてお話くださいました。

二日目は「先輩農業者の取組事例を学び、自身の経営計画を考える」というテーマでした。群馬県せきね園芸の関根正敏さん、おひさまのいちご園の菅野久美子さんが

自家の経営内容や地域との関わりなどをお話ししてくださいました。その後、自らの経営戦略を考えるためのSWOT分析を学び、グループワークを行いました。



最終日は二日目に考えた自らの経営戦略を一人ずつ発表しました。皆さん、二日間の講義で学んだことを活かし、新しくおもしろい経営戦略を発表していきましょう。

参加してよかったと思える三日間でした。

②四国セミナー

野菜園芸コース 久保 公二

徳島県で開催された四国四県のセミナーに、一年生四名とともに参加しました。大学の先生や私たちの先を行く若手農業者の方々のお話を聴講したり、全く知らない他の農大生と共同生活やグループワークを行い、充実した二泊三日でした。

講師の方から様々なことを学びましたが、全員が共通して強調しているのは、「つながり」ということでした。地域とのつな



がり、人とのつながり。その大切さを再認識しました。このセミナーで出会った他の農大生とのつながりも大切にしたいと思います。

また、講師の方の体験談を通じて未来への希望を感じる一方で、問題点も考えることができました。グループワークでは、皆の意見を集約する力を身につけることができました。このセミナーで学んだことを実践できるようにしていきたいと思えます。

同窓会だより

農業大学校同窓会副会長

小豆地区支部長 香川県農業協同組合

小豆地区営農センター副センター長 佐伯 浩氏



私の家は水稲、菊、ミカンを栽培していた専業農家だったため、昭和五五年に農業大学校に入学して花きコースに在籍し、花き栽培を学びました。当時は、卒業したら農業を継ごうとい

う気持ちもなく実家が菊を作っていたから花きコースを選んだという気持ちで二年間を過ごしたように思います。

農大時代を振り返ると、実家が小豆島だったため、二年間の寮生活を体験したことも今になっては良い思い出になっています。また、二年生の先進農家での実習では菊農家の栗熊ガーデンで実習を行い、農家の苦労を知ることができました。特に忘れられないのは部活動のバトミントンで農業大学校学生連盟スポーツ大会の四国大会で団体優勝し、和歌山で開催された全国大会に出場したことです。

何の目的も持たずに農業大学校に入学し、卒業後は、地元の農協に就職をして畑違いの畜産担当を二〇数年間行い、現在は小豆地区営農センターに勤務しております。

最後に、農大生の皆さんにとっては二年間の短い学生生活ですが、すばらしい仲間を作り、いろいろな人と接する中で充実した日々を過ごしてください。そして、一人でも多くの卒業生が地元で農業に携わる

ことを期待しています。

農大ふれあい市

本校の学生自治会が主催する恒例の「第二〇回農大ふれあい市」を次のとおり開催します。

本年も学生が頑張って趣向を凝らした企画を用意しておりますので、皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください。

開催日時

十一月十二日(土)

午前十時三〇分〜午後二時

内容(予定)

野菜、果物等の販売

苗物、鉢物、堆肥等販売

模擬店(焼そば、菓子など)

オープンキャンパス

来年度、入学を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は事前ご連絡の上、受付までお越しください。

お願い

駐車場は榎井小学校運動場も利用できますが、数に限りがございます。できる限り公共交通機関をご利用ください。